

冒険教育プログラム青少年教育指導者研修会

令和元年6月15日(土)～16日(日)

【目的】

冒険教育の手法を用いた活動を通して、チームビルド等の人間関係の構築や自己肯定感の向上を目的としたグループワークの指導者になるための基本的な知識・技能を体験的に学習する。

【参加者】13名

【プログラムの内容】

1日目

- 9:45 開講式、オリエンテーション
- 10:00 セッション①「ブリーフィング・アイスブレイク」
- 13:00 セッション②「イニシアチブ・ローエレメント」
- 19:00 セッション③「理論・Being」

2日目

- 9:00 セッション④「チェックイン・ローエレメント」
- 13:00 セッション⑤「トラスト・イニシアチブ・Being」
- 16:00 閉講式

セッション①



PAJより渡邊貴大氏をお呼びし、冒険教育を体験的に学ぶ。県外からの参加者や学生の参加も多かった。

互いに知り合い、初対面にメンバー同士にも少しずつ笑みがかぼれ、温かく緩やかな雰囲気での研修会がスタートした。



セッション②



イニシアチブやコミュニケーション活動ののち、室内でのローエレメント活動に臨んだ。

活動中に感じたことが互いにかける言葉として表れるようになり、真剣な表情で取り組む時間が増えてきた。

最後に活動の中で起きたことを模造紙にまとめた。



セッション③



午後のふりかえりを行い、感じたことを互いに伝え合う時間となった。

また、冒険教育の手法について理論的な話を受け、体験したことの効果や意義についても学んだ。

セッション④



2日目はチェックインから始まり、イニシアチブののち、屋外でのエレメントを体験した。

失敗を繰り返しながらも、お互いに声をかけ合い、できることを出し合うことでより大きな達成感を味わっている様子だった。



セッション⑤



午後はトラストシーケンスの体験から、最後のエレメント体験をした。互いに納得のいく解決方法を模索していた。感じていることをすぐに言い出せず悩む姿もあり、最後のふりかえりでは、体験から感じた気づきがあふれ、話が尽きない時間となった。



【参加者の声】

- 自分らしい居心地の良い時間となった、みんなの「大丈夫」の温かさに勇気ももらってできた
- 研修の内容が濃く、一つ一つの活動を振り返ることで、意味付けやグループの修正を体験的に学ぶことができた。
- 交流が深まるにつれ、自分から意見が言えるようになる体験からグループ活動の大切さを感じ、自己の活動にも生かしたい。

【成果と課題】

昨年度から6月開催に変更し、TAP研修会や指導者養成講習会への接続をスムーズに行えるメリットがあった。開催時期は概ね適切であるとの声をいただいたが、青少年教育施設の方々は利用者の多い時期とも重なり、秋、冬での開催を希望する声もいただいた。年間を通した指導者向けの研修スケジュールを見直す機会としたい。